



舗装道路等の切断時に排出される汚泥含有冷却水の脱水設備を整備しリサイクルを行う事業

舗装面やコンクリート面などの路面をカッターで切断する際に発生する汚泥。その汚泥処理に要する時間や費用をなくすことを目的にしている。汚泥の脱水設備を導入することで、排水を産業廃棄物として処理するのではなく、水と脱水ケーキに分離することで、各々再利用し、産業廃棄物の減量化と再資源化を実現する作業工程を作り出す。

1 本事業への取り組みの経緯

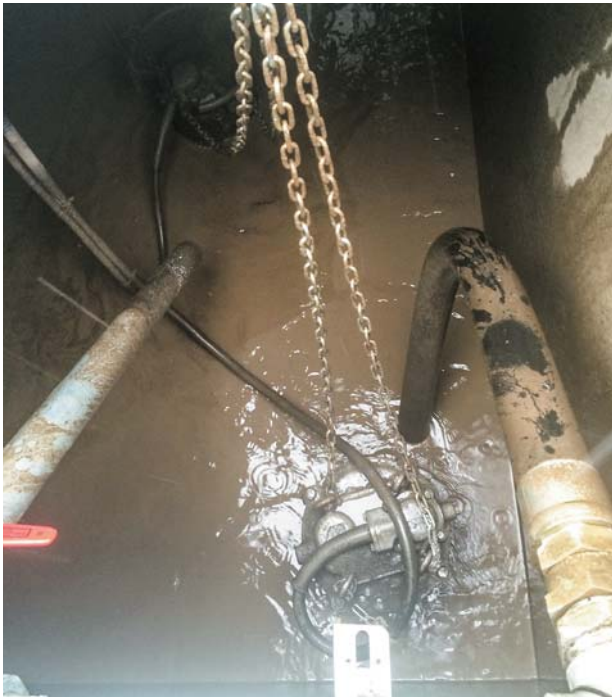
舗装面やコンクリート面などの路面をカッターで切断する際には、冷却水を使用し、使用後の冷却水は汚泥等を含んだ状態で排出される。現状ではこの汚泥を含む排水は産業廃棄物として、現場から処理業者の処に運搬し処理を委託している。その運搬時間とコストを削減し、リサイクルできないかが課題であった。県内に今回のような設備を導入しているところはなく、当社が最初の試みとなる。



2 実施内容

作業現場から排出された汚泥を、実施場所において処理することで、清水と脱水ケーキに分離する。実施開始から、およそ1週間に1回のペースで試運転を行ってきた。機械を作動させるのに特別な知識や技術は不要であり、各従業員はスムーズに機械を作動させることができた。分離して中和された清水も作業現場で問題なく再利用できた。およそ2時間の作業時間で、約3m³の汚泥を約300kgの脱水ケーキに減容することができた。

試運転後の本格的な稼働により、年間約500m³の汚泥を処理し、約2割に減容化でき、処理料金も元請会社から得ることができた。



3 取組成果・波及効果

これまで汚泥を産業廃棄物として処理していた時に要していた運搬時間や業者に支払っていた費用をなくすることができた。具体的には当社が現場から処理業者の所まで運搬し、後に事務所に帰るパターンであったが、汚泥を積み現場から事務所(設備設置場所)に直帰できるため、時間を効率的に使うことができ、運搬コストもなくなった。さらに、元請会社が処理業者に支払っていた処理料金は当社が得ることができるため、少なからず売上に結び付いた。

また、元請会社は当社と運搬契約、処理業者と処理契約を結んでいたものを、当社1社との契約で済むため、事務の効率化にも貢献している。



代表取締役社長

山中 勇樹

今後の展望・活動予定は?

現在は自社の汚泥処理が中心ですが、試錐(ボーリング)業者からの持ち込みも増えつつあります。減容した脱水ケーキは産廃処理業者に処理を依頼していますが、今後は再生リサイクルの最終目標を達成するために新たな設備導入を計画しています。具体的には脱水ケーキを安定処理し強度のある改良土や路盤材に再利用する計画です。実現すると産廃ゼロのリサイクルが実現することになり、時間とコストの削減に加え、完全リサイクルという目標を達成できると思います。

事業者

株式会社プロテック

代表者

山中 勇樹

所在地等

〒856-0844 長崎県大村市溝陸町863-7

TEL 0957-49-6220

FAX 0957-49-6221

<http://pro-tec.co.jp/>

E-mail:protec2012@pro-tec.co.jp



設立年月

平成24年10月

資本金

500万円

業種

ダイヤモンド工法によるコンクリート等
構造物の切断・穿孔工事施工

従業員数

10名